

<今日の説教のポイント コリントの信徒への手紙 I 11 章 27～34 節>

1 「ふさわしくないままで」とはどういうこと？ 十字架の主を思う！

「従って、ふさわしくないままで主のパンを食べたり、その杯を飲んだりする者は、主の体と血に対して罪を犯すこととなります」(27)。聖餐式に与ることを躊躇させられる出だしの内容です。「ふさわしくないままで」とは、直前の箇所(23-26)から、「イエス・キリストが私たちの罪の贖いのために死んで下さったことを深く理解しないままで」という意味です。聖餐に与れるのが洗礼を受けた人だけの理由がここにあります。しかし、「自分は洗礼を受けたが、本当に深く理解できているのだろうか」と心配になる人がいると思います。信仰に対して真剣であることは悪くないですが、「ふさわしい」の内容を正しく捉えることが大事です。もし、「自分は聖餐式に与るにふさわしい」と思う人がいたとしたら、その人はふさわしくないのです。神様の前に正しいかどうかを問われたら、誰も正しい人はいないからです。それでは、聖餐式に与るにふさわしい人とは誰か？ 聖餐に与る資格が自分にはない罪の深さを知らされ、それ故にその罪が神様の御子の十字架の死によって赦されたことに心打たれ、「神様に全てをお委ねします」と告白した(洗礼を受けた)人です。ルターが「罪人にして義人」と表現した信仰者たちです。

2 十字架の主を思うに留まらず、主の体なる教会を思うところまで！

しかし、本当に大事なのはここからです。この聖餐についての箇所の始まり(17-22)と終わり(33-34)は、教会の群れの貧しい人たちを放っておいて先に食べ出す豊かな人たちへの警告です。自分の心の中が神様に謙虚であるかだけ問うても、それはまだこの個所の半分しか読んでいません。パウロはここでは「主の体」(29)を「主の体なる教会」まで広げて考えているのであり、同じ教会に属する貧しい人々のことを無視してられる人々を叱責しているのです(「待ち合わせなさい」(33):「受け入れなさい」ローマ 15:7)。一見不可解な 30 節の内容も、以上のことから、自分たち自身への「主の懲らしめ(教育するという意味もある語)」(32)として聞くことができるでしょう。私たちの教会、私たち自身はどうでしょうか？ マタイ 25 章で、主イエスの思いは「この最も小さい者の一人」としてさらに教会外の人々にまで広がられています。